

第 28 回議会報告会 報告書

地 域 名	大谷地域		
年 月 日	令和 7 年 10 月 28 日 (火)	会 場 名	大谷ふれあいセンター
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 05 分
参 加 数	男性 4 人	女性 1 人	合計 5 人
班 長	前田 稔	司 会 者	前田 稔
報 告 者	藤原芳巳	書 記	井戸弘美
班 員 名	前田 稔、藤原芳巳、津崎和男、井戸弘美		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑	<p>① 地域おこし協力隊員と話す中で、彼らが悩みを相談できる場所の必要性を感じている。定着率向上に向け、支援体制が必要ではないか。</p> <p>② 出生数の増加を促すため、出産費用への補助など他市町村にはない市独自の魅力的な支援策を拡充すべきではないか。</p> <p>③ 高校生との意見交換で実際に市政に反映された実績はあるか。意見交換会の持つ意義を問いたい。</p> <p>④ 高校生の提案にもあるように、居場所や学習スペースの必要性がある。ペアなどに有ったスペースも無くなった。新しい建物をというのではなく既存の建物を活用した居場所づくりができないか。</p>	<p>① 募集時に、ミッションと共に前提として定住に向けた青写真もできている。活動費活用等の相談窓口もあり、OB・OG組織などのネットワークもある。養父市の定着率は向上傾向にあるが、定着には「誰かが応援する」体制の強化は必要と認識している。</p> <p>② 出産費用は国からの補助でほぼ全額をカバーできている。養父市の既存の子育て支援策は手厚く、周りの市町からうらやましがられるほどである。自治体間で子育て支援の競争は激化しており、養父市も懸命に努力している。</p> <p>③ 八鹿駅の駐輪場の設置は、その代表的な例である。議員は成果を報告書や一般質問などを通じて市政に反映しようとするが、施策として採用されるかは、提案の完成度や市の判断に左右される。成果については、長期的な視野で見えていただきたい。</p> <p>④ 高校生たちは、商業施設「ペア」の閉鎖後は主に「Y B ファブ」のホワイエや図書館を勉強場所として利用している。高校生の居場所や学習スペースにさらなるニーズが存在することは認識しており、寄せられたご意見も参考に今後の活動に反映させていく。</p>	

	市民	対応
意見交換会での質疑	<p>① 「関宮小さな拠点」の具体的な活用方法が定まっていない現状に対し、強い危機感を抱いている。自治協・区長会が連携して市に質問事項を提出する予定だ。</p> <p>② 天滝での滑落事故は新聞報道だけではよくわからない。どんな状況だったのか。</p>	<p>① 箱もの整備ではなく、運営主体の方針とネットワーク構築が重要だと考える。議会も現状把握からコミットしていく予定。運営体制や住民参加の仕組み強化など自治協の皆さんとも情報を共有しながら共に取り組みたい。</p> <p>② 登山道におけるすれ違いの際に、谷側へ避けようとして滑落したものの報告を受けている。</p>
その他（提言など）	<p>① 大谷区が指定管理者となっている農村公園の老朽化した汚水ポンプの維持管理が区の財政的・技術的負担能力を超えている。特殊な構造物であり、市の管理に移行してほしい。</p> <p>② 大谷区の公民館に冷房がなく、猛暑時の避難時に支障がある。コミュニティ助成を繰り返し申請するが不採択が続いている。</p> <p>③ 旧八鹿文化会館の跡地は、芝生公園となっているが、必要性に疑問を感じている。河川増水時や老人センター利用時に駐車場不足になることから、駐車場として活用すべきではないか。 大雨時の河川駐車場の車の退避勧告放送を聴きたくない。</p>	<p>① 指定管理契約では、5万円以上の修理費は市の負担となっている。文書で要望書を提出して市に修繕を要求していただきたい。</p> <p>② あきらめることなく申請を続ける事が必要。コミュニティ活動に資する内容での申請が重要と思われる。</p> <p>③ 芝生広場は、子育て世代などが集う憩いの場として、市民の要望に基づいて整備されたものである。 駐車場が広くなっても、河川駐車場がある限り、安全確保のために車の退避を促す放送がなくなることはない。</p>
備考	なし	

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和7年11月18日

報告者 4班 班長 前田 稔